

海の科学講座への招待

「地球温暖化の影響で年平均気温の最高記録を更新しました」というニュースを目にすることがありますが、海でも水温の上昇や、これまで獲れていた魚が少なくなり、代わりに熱帯の魚が獲れるようになるなど、様々な変化が起こっています。気象の変化に比べると海の変化は身近に感じることは少ないかもしれませんが、海でも地球温暖化の影響が確実に現れています。今回の講座では、調査により明らかになってきた、地球温暖化が海の環境や生態系に及ぼした影響、さらにはコンピュータによる予測から見えてくる将来の海の環境について、高校生など若い人をはじめ一般市民の方々にわかりやすく紹介します。変化する海、未知の海に興味を惹かれる方、なんだかわからないけどおもしろそうだな、と思った方、この機会にぜひ参加してみてください。

講座内容・講師紹介

『気候変動と海』

講師：長井秀樹（福岡管区気象台 海洋情報調整官）

太平洋の熱帯域から流れてくる黒潮の水を主な起源とする対馬暖流は、日本海に熱を輸送することで日本海側の気候形成に大きな影響を与えています。また、世界的な気候変動問題では、海は地球温暖化で増加した熱や温暖化の原因物質の一つである二酸化炭素を吸収し蓄積することで気温上昇を緩和する働きをするなど、地球の気候を形成するうえでも大きな役割を担っています。

講演では、海と気候との係わりや、これまでの観測データから明らかになった、温暖化により生じた海の変化について紹介します。

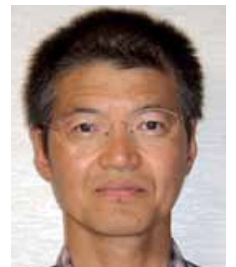


『地球温暖化による「海の森」の変化』

講師：清本節夫（西海区水産研究所 資源生産部 主任研究員）

海洋の沿岸域は生物生産力が高く、様々な水産生物の漁場になるとともに、それらの子供が育つ成育場にもなっています。この海域における生産を支える重要な場のひとつが「海の森」とも呼ばれる大型海藻の群落です。「海の森」は、海藻を食べるアワビやサザエ、ウニなどの動物に餌を供給するだけでなく、魚介類の産卵場や生息場にもなっています。大型海藻の衰退は、時に「磯焼け」と呼ばれ、磯焼けの発生は漁業生産の減少と密接に関連すると考えられています。

講演では、長崎県における大型海藻の衰退と地球温暖化に伴う海水温の上昇との関係についてこれまでの調査結果から紹介します。



『明日の海を予測する』

講師：広瀬直毅（九州大学応用力学研究所 教授）

大きく安定した流れと思われがちな黒潮や対馬暖流も、実は時々刻々と変化しています。私はこれまで対馬暖流を主なターゲットに、潮汐や数日程度の短期的な変化から温暖化に応じた長期的変動傾向まで、様々な時間スケールの海況シミュレーションに取り組んできました。数値計算の再現性と予測精度が向上することによって、地球環境と人間活動が調和した未来にも繋がると信じています。

講演では、対馬海峡を通過する海水量、熱量、栄養分、プランクトンなどを題材として、その数値シミュレーションの方法と結果を紹介します。



司会進行



岸真弓（気象予報士・気象キャスター）

プロフィール：群馬県出身。学習院大学文学部卒業。気象予報士。日本気象協会に所属した後独立。現在、福岡と広島で気象キャスターとして、テレビやラジオに出演中。また、野菜ソムリエ等の資格を活かし、気象と農業を結びつけ、講演活動なども多数おこなっている。

問い合わせ：092-725-3613（福岡管区気象台 地球環境・海洋課）

共催：福岡管区気象台、九州大学応用力学研究所、西海区水産研究所

後援：福岡県教育委員会、福岡市教育委員会

ホームページ：<http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/ocd/umikouza/index.htm>



地下鉄西新駅7番出口より徒歩約10分
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。